



連載Ⅱ
ホスピタリティーの
手触り 80

国境の島、対馬にて

旅行作家 山口 由美

陸続きだった証と日本の原風景に出会う

対馬は、想像以上に大きな島だった。

南北約八十二キロの細長い島は、沖縄本島、佐渡、奄美大島に次ぐ面積がある。もともとはひとつの島だったが、江戸時代と明治時代に運河が掘られ、今は南北二つの島に分かれている。

私が宿泊したのは島の南端、豆酸にある「美女塚山荘」という宿だった。世話好きのご主人が早朝、周辺を案内してくれるのが、宿の売り物になっている。

夕食後、どんなところに興味があるかと尋ねられ、私はツシマヤマネコを見てみたいと話した。対馬を代表する国内希少野生動物種、天然記念物のヤマネコである。

日本のヤマネコというと、ほかに西表島のイリオモテヤマネコが知られ、こちらのほうが有名だ。一九六五年、電撃的に発見され、特別天然記念物になった。だが、環境省レッドリストの最も希少性が高いIA類にランクされたのはツシマヤマネコのほうが先だったのに、なぜ「特別」でない、ただの天然記念物なのかとご主人は不満顔に言う。そして、それは、基地問題などで注目度が高い沖縄と、人々から忘れ去られた対馬との立ち位置の差ではないかと訝る。国境の島であるにもかかわらず、

中央において対馬の存在が希薄であることの象徴がツシマヤマネコだと、彼は言うのだ。

宿の周辺でも運がよければ遭遇できるが、島の北部にある対馬野生動物保護センターに行けば、確実に見ることができる。翌日、ご主人が案内してくれることになった。保護センターにいるヤマネコは二頭だが、一般公開されているのは、雄の「フクマ」だけだ。



ツシマヤマネコの「フクマ」

野性味の強いイリオモテヤマネコに比べ、ツシマヤマネコは可愛らしいと、ご主人はさかんに自慢する。確かにフクマは、なかなかのイケメン猫だ。全体の印象はイエネコに似ているが、独特の斑点模様と「ツシマ・

レバード・キャット」という英語名が物語るように、実はイエネコよりヒョウに近い。極東アジアに生息するアムールヤマネコと同種で、氷河期時代、対馬が大陸と陸続きであったことを証明するものでもある。

そして、今も朝鮮半島は、対馬の目と鼻の先に存在する。島の北端にある韓国展望所をめざして車を走らせていた時、そのこと



島の北端にある韓国展望所

を実感させられる出来事があった。電話をかけようとスマートフォンを取り出したのだが、なぜか作動しない。よく見ると、韓国にしていることを示す画面が表示されているではないか。このあたりでは、こうした誤作動はよくあるという。

考えてみれば無理もない。視界のいい日であれば釜山の町が見える韓国展望台から釜山までの直線距離は四十九・五キロ、一方、福岡までの距離は百四十五キロである。

近年、韓国からの観光客が増えているが、背景には、物理的に対馬に近い韓国から観光客を誘致しようと、J R九州高速船が対馬北部の比田勝港から釜山までの航路を開設したことがきっかけとしてある。片道わずか一時間、一方、南部の厳原港から福岡までの高速船は二時間十五分かかる。そして、韓国人観光客は今、確実に対馬の経済を支えている。そして、対馬には、朝鮮半島と日本の外交を担い、友好を支えてきた歴史がある。その象徴が、江戸時代、友好の証として朝鮮から日本に來訪した使節団「朝鮮通信使」である。鎖国の時代、世界に開いた窓として、長崎の出島と並んで重要だったのが、対馬藩と朝鮮のルートだった。当時、徳川幕府と朝鮮王朝との間には対等で友好的な関係があり、これを支えていたのが対馬藩なのだ。しかし、明治維新後、対馬藩の消滅と共に、征韓論、朝鮮併合、そして戦争と、日朝関係は不幸な歴史を歩むことになった。



「美女塚山荘」に近い多久頭魂神社の神秘的な境内

その「朝鮮通信使」を日韓共同で「世界記憶遺産」の登録をめざす動きがある。その昔、豊臣秀吉の朝鮮出兵という負の歴史を友好の歴史に転換させたのは対馬藩の尽力だった。今再び「朝鮮通信使」の歴史を日韓の友好関係の「切り札」にしようというのだ。国境の島は、実に美しい島だった。

海と山のおりなす風光明媚な風景があり、古事記や日本書紀の神話に由来する史跡がある。私の泊まった豆酸の周辺は、民俗学的にも貴重な場所とされる。民俗学者の宮本常一は、戦後まもない昭和二十五、六年に対馬を訪れている。その時の記録は『忘れられた日本人』という名著に収められている。なかでも「梶田富五郎」という老人の聞き書きは有名な件だが、その老人の暮らした集落も豆酸の近くにある。原生林に囲まれた多久頭魂神社の神秘的な風景、その周辺には古代

米である赤米の水田が広がる。そこは、今も変わらない、まさに忘れられた日本の原風景だった。

多くの韓国人観光客もこうした対馬の魅力を楽しんでいる。だが、日本人観光客は、アクセスの悪さもあって非常に少ないのが実情だ。福岡と長崎から航空路もあるが、料金が割高なのがネックになっている。対馬という美しい国境の島があることを、私たち日本人も忘れてはいけないと思う。

(やまぐち ゆみ)